KIORITZ

共立クローラスプレーヤ

取 扱 説 明 書

型 式

CHS363HS

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

目　次

安全にご使用いただくために 3

1 付属品の確認 9

2 各部の名称と取り扱い 10
2-1. 各部の名称 10
2-2. 各部の取り扱い 12

3 作業の準備 15
3-1. 運転前点検 15
3-2. 燃料の準備 15
3-3. エンジンの運転 16
3-4. エンジンの停止 17

4 車両の運転 18
4-1. 発進の方法 18
4-2. 走行中の注意 18
4-3. 坂道の走行 19
4-4. 車両の停止 19
4-5. 車両の運搬 19

5 散布作業 21
5-1. 散布計画 21
5-2. 薬液散布の方法 25
5-3. 薬液散布の準備 25
5-4. 薬液散布の操作 26
5-5. 散布終了 28

6 作業終了後 29
6-1. 清掃 29
6-2. 保管 30

7 点検･整備 31
7-1. 日常点検・定期点検 31
7-2. オイルの補給 32
7-3. グリスアップ 34
7-4. 各部の点検 34
7-5. 故障対策 36
7-6. 長期格納整備 37

8 仕様 39

9 配線図 40

10 配管図 41

安全にご使用いただくために

警告表示について

⚠ 危険	⚠ 警告	⚠ 注意
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。	**その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。**	**その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。**

その他の表示について

	丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものがすべて禁止されていることを表します。

重要
重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている製品の使用、点検、保守、保管に関する重要な注意事項です。

シンボルマークについて

シンボルマーク	意味	シンボルマーク	意味
	ご使用前に取扱説明書をよく読み、正しく作業すること		「挟まれ」に注意すること。
	作業中は、保護具を必ず着用すること。		薬害や環境汚染に十分に配慮し、薬液は必ず使い切ること
	作業中はノズルに近づかないこと		高温部に注意すること
	通気の悪い場所で製品を使用しないこと		火災に注意すること
	「毒性」に注意すること		

安全にご使用いただくために

重要なお知らせ

⚠ 警告

製品の使用目的以外の使用禁止

❍ この製品は液剤散布作業に使用してください。
❍ 本書に記載されている用途以外に使用しないでください。

事故や重傷を負う原因となります。

製品の改造禁止

❍ 製品を改造しないでください。

事故や重傷を負う原因となります。

点検・整備をしていない製品の使用禁止

❍ 定期的に点検・整備をしてください。

事故や重傷を負う原因となります。

製品の貸与、譲渡

❍ 製品を貸すとき、譲るときは、この取扱説明書も渡してください。

事故や重傷を負う原因となります。

製品の使用者

❍ 体調不良、疲労している、酒類を飲んでいる、薬物を服用しているなど、体調が万全でないときは使用しないでください。
❍ 次のような人は使用しないでください。

- **妊娠している人**
- **取扱説明書の内容を理解していない人**
- **農薬の影響を受けやすい人**



❍ この製品を初めて使用する人は、農協や防除共済組合などの職員から散布作業の注意事項について説明を受け、作業前に散布作業の計画を立てて指導に従って作業をしてください。

事故や重傷を負う原因となります。

健康管理

❍ 休憩をとりながら余裕を持って作業をしてください。
❍ 長時間の連続作業は避け、２時間を限度としてください。

健康障害を受ける恐れがあります。

服装を整える

❍ 首にタオルを巻くことや、腰手ぬぐいは、しないでください。

回転部に巻き込まれて、事故の原因となります。

製品の使用環境・作業環境

❍ 次のような場合は製品を使用しないでください。

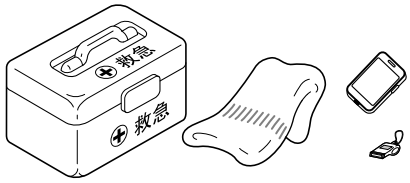
- **降雨時や落雷の恐れがあるとき**
- **急傾斜地や足元が不安定で滑りやすい場所**
- **夜間や視界が悪い場所**

転落や滑落、誤った操作などにより事故や重傷を負う原因となります。

安全にご使用いただくために

⚠ 警告

事故やケガへの備え



❍ 事故やケガに備え、下記の用具を用意してください。

- **救急箱（応急手当用）**
- **タオルや手ぬぐい（止血用）**
- **呼子や携帯電話（外部との連絡用）**

応急手当や外部への連絡ができず、症状が悪化する恐れがあります。

発火・発煙・火災への備え

❍ 発火・発煙・火災に備え、消火器やシャベルを用意してください。
❍ エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず製品から離れて、身体の安全を確保してください。
❍ 周囲に類焼しないようにシャベルで砂を掛けるか、消火器で消火してください。

あわてて対処しようとすると、火災やその他の傷害の拡大につながります。

⚠ 注意

取扱説明書



❍ この取扱説明書には、製品の組み立てや操作、点検・整備に必要な事項が書かれているので、よく読んで理解してください。
❍ この取扱説明書は、いつでも読めるように保管してください。
❍ 製品の改良のため、予告なしに内容を変更することがあります。
❍ 使用している図は説明をわかりやすくするため、現品と異なる場合があります。
❍ 損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から購入してください。

事故や重傷を負う原因となります。

保護具の着用

❍ 農薬を使用するときは、適切な衣類と正しい保護具を身に付け、農薬に直接触れないでください。

農薬に触れたり吸引したりすると、薬害事故の恐れがあります。

❍ 作業中に着た服は、他の衣服と別に洗ってください。

薬害事故の恐れがあります。



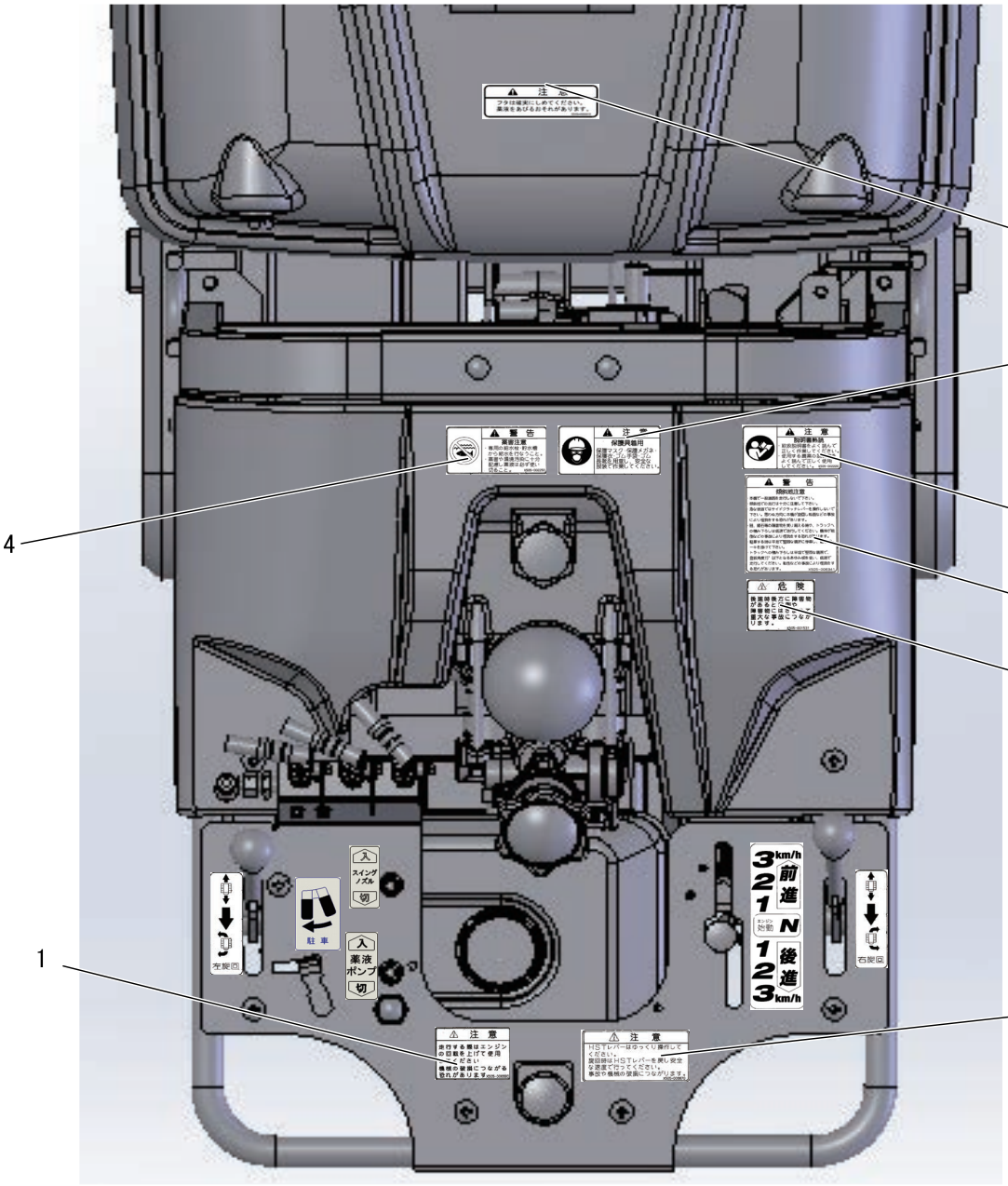
重要

❍ 使用目的以外の作業による製品の故障、あるいは改造による故障の場合は、メーカー保証の対象外になりますのでご注意ください。詳しくは保証書をお読みください。

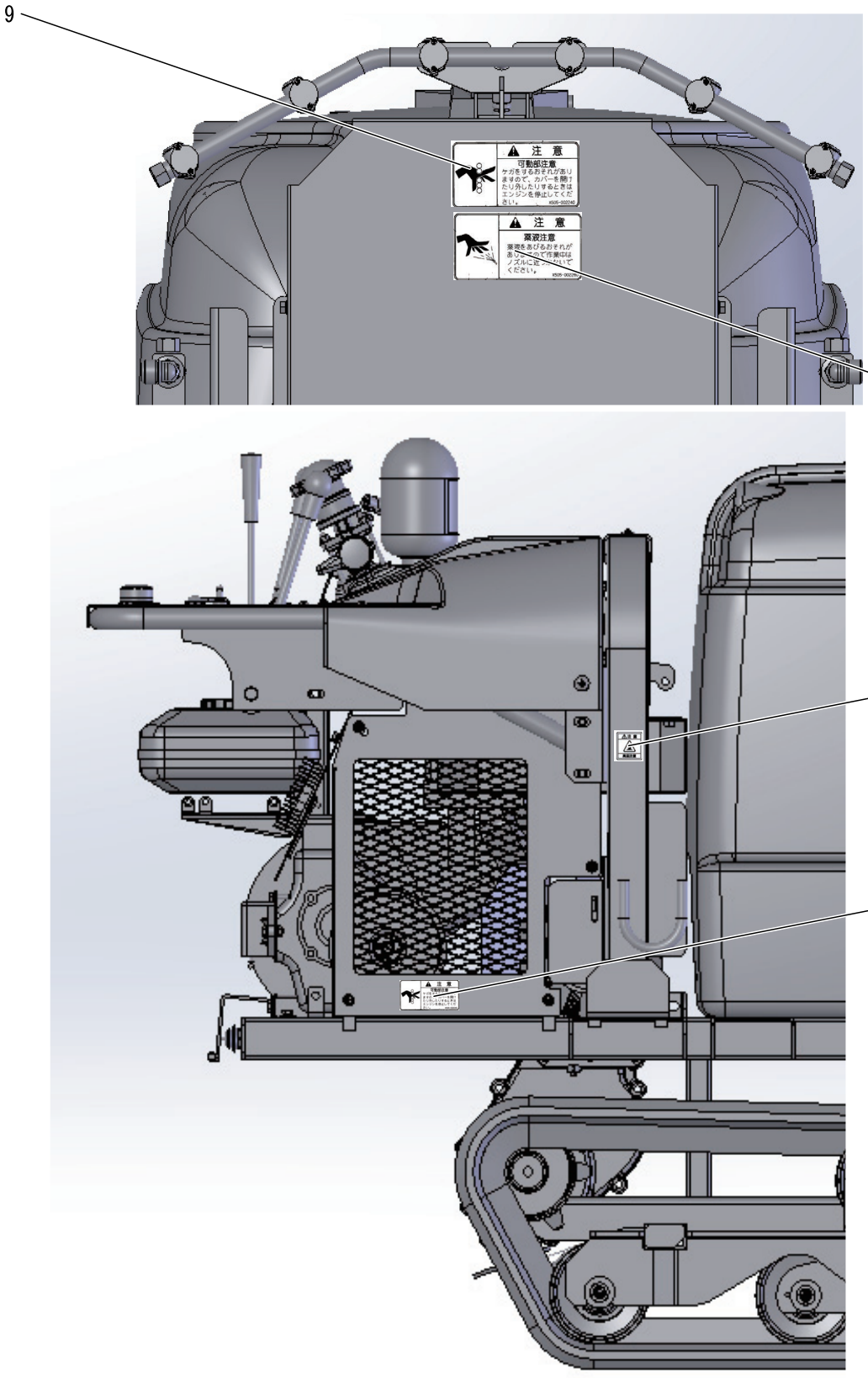
安全にご使用いただくために

警告表示ラベル

- 本書で説明している製品の警告表示ラベルを示しています。ご使用前にラベルの意味を理解してください。
- ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店からラベルを購入し、下図に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。

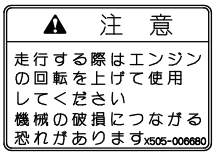


安全にご使用いただくために



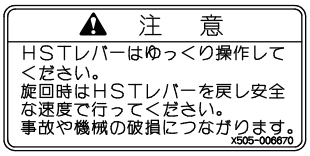
安全にご使用いただくために

1



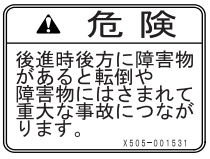
X505-006680

2



X505-006670

3



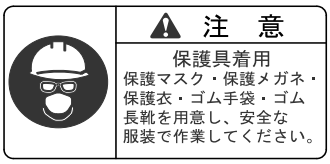
X505-001531

4



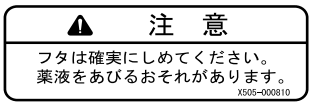
X505-002250

5



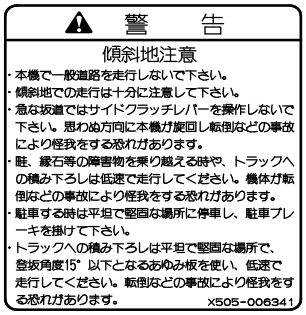
X505-009860

6



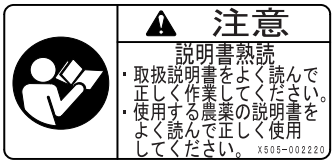
X505-000810

7



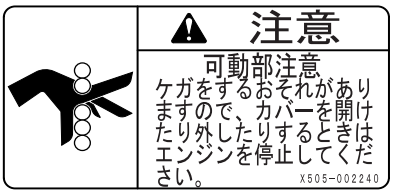
X505-006341

8



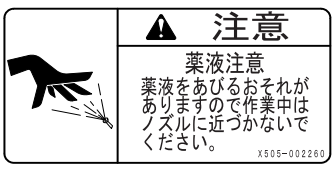
X505-002220

9



X505-002240

10



X505-002260

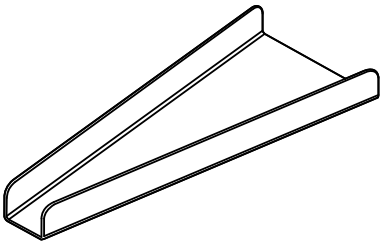
11



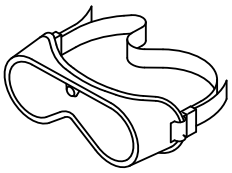
X505-002790

1. 付属品の確認

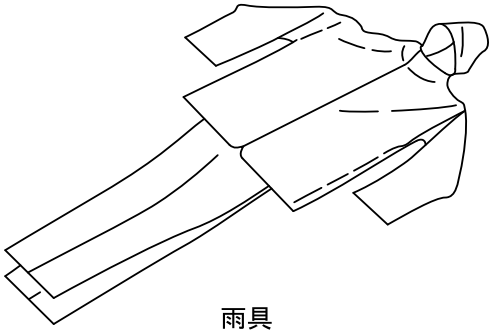
❍ 欠品や破損などがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。



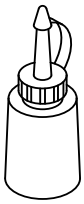
アングルプレート



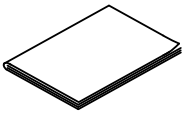
ゴーグル



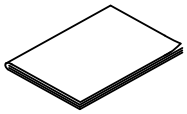
雨具



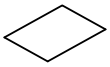
オイラ



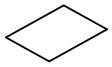
取扱説明書（製品）



取扱説明書（エンジン）



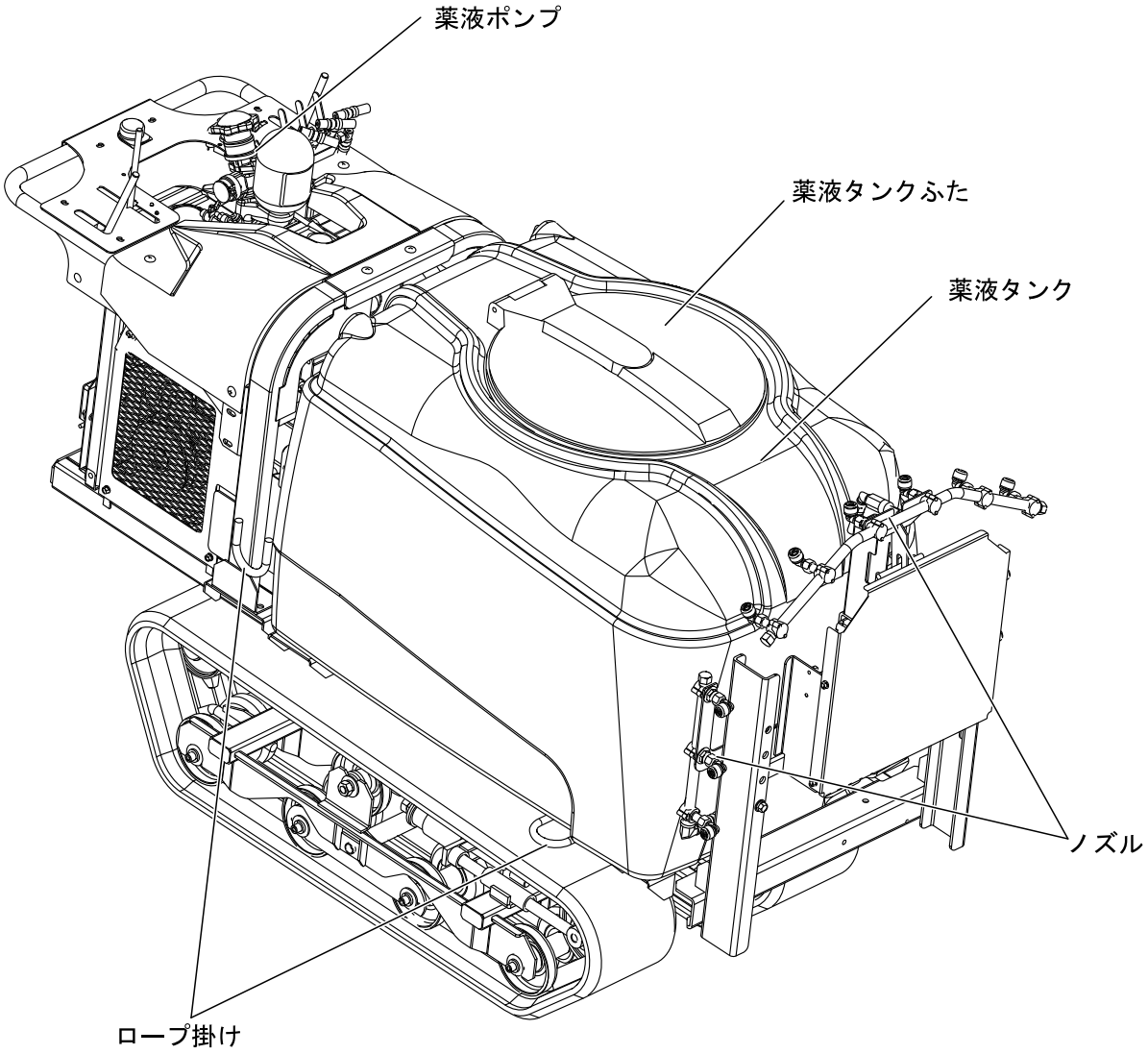
特別保証書



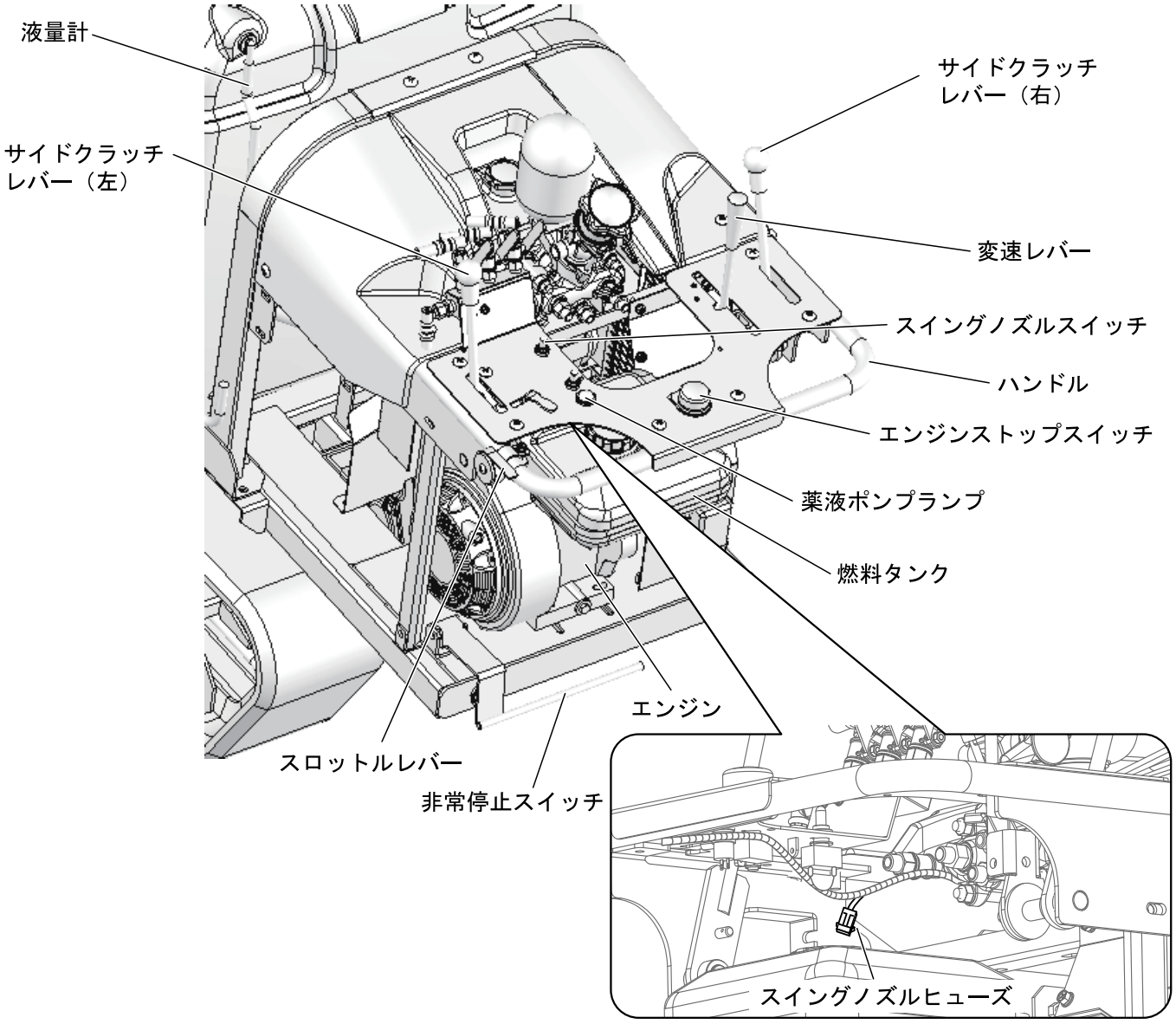
保証書

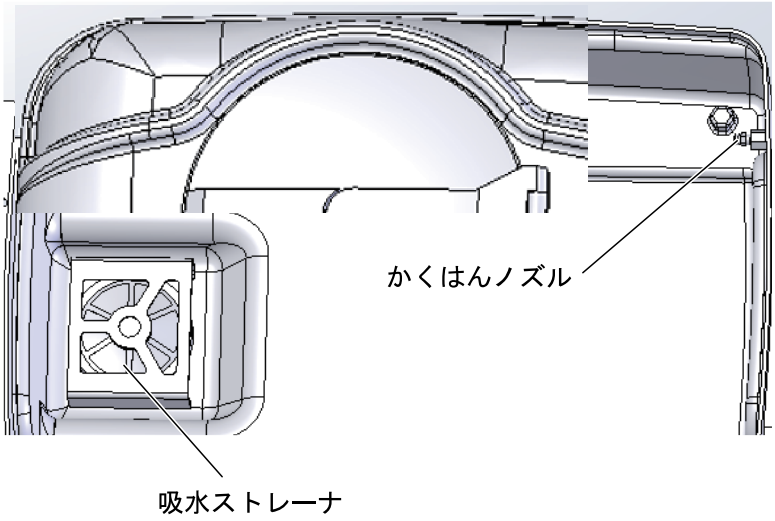
2. 各部の名称と取り扱い

2-1. 各部の名称



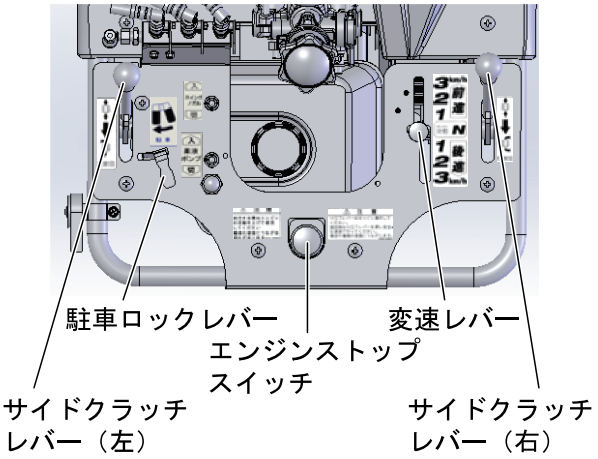
2. 各部の名称と取り扱い





2-2. 各部の取り扱い

■走行操作部



駐車ロックレバー

- 走行するときはサイドクラッチレバー（左）を引き、駐車ロックレバーを右にスライドしてサイドクラッチレバー（左）を解除してください。
- 駐車するときはサイドクラッチレバー（左）を引き、駐車ロックレバーを左にスライドしてサイドクラッチレバー（左）をロックしてください。

変速レバー

- 走行速度を変えるときに使用します。
- 変速レバーを前に倒すと前進、後ろに倒すと後進します。
- 変速レバーの傾き量により速度が変わります。

  ※ 速度ラベルは目安です。

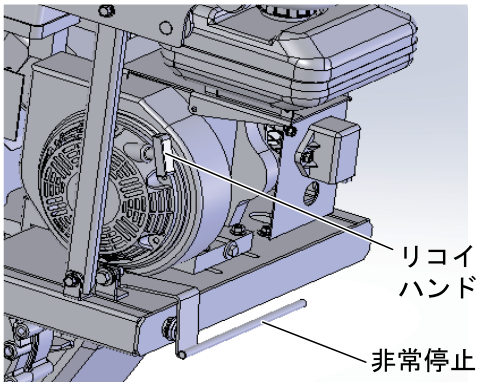
サイドクラッチレバー

- サイドクラッチレバーは、車両の左右の進行方向を変えるのに使用します。右のレバーを手前に引けば右旋回となり、左のレバーを手前に引けば左旋回となります。

⚠ 注意

- **高速での旋回は転倒の恐れがあります。低速での旋回をしてください。**
- **レバーはストロークエンドまで確実に引いてください。必要以上に強く引かないでください。**

  事故やケガを負う恐れがあります。



エンジンストップスイッチ

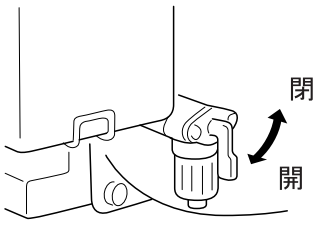
- エンジンを停止する時に押して使用します。

リコイルスタータハンドル

- ハンドルを引いてエンジンをスタートさせます。

非常停止スイッチ

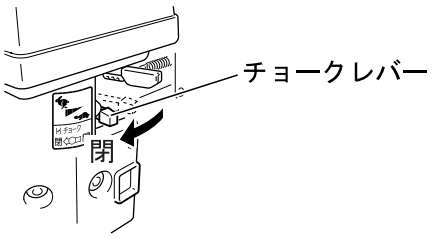
- 非常停止スイッチを押すとエンジンが停止します。



燃料コックレバー

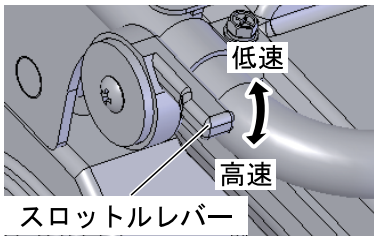
- 開でエンジンを始動、作業終了で閉にします。

2. 各部の名称と取り扱い



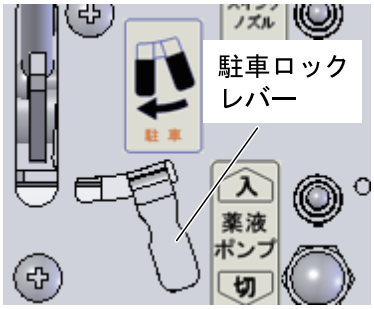
チョークレバー

- エンジンが冷えているとき、閉にしてエンジンを始動します。



スロットルレバー

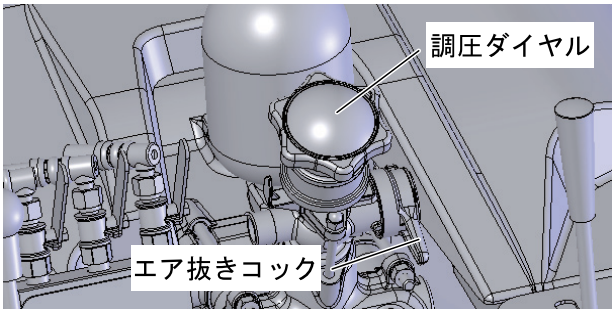
- レバーを動かしてエンジンの回転数を調整します。



駐車ロックレバー

- 駐車ブレーキの作動・解除する時に使用します。
- サイドクラッチレバー（左）を引きながら、駐車ロックレバーを駐車にすることで、駐車ブレーキが作動します。

■散布作業操作部



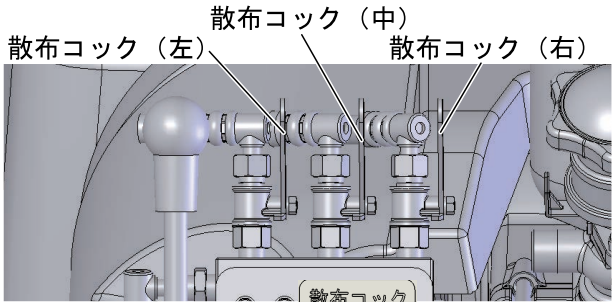
調圧ダイヤル

- 調圧ダイヤルを回して圧力を設定します。
- ダイヤルはノッチ式で各圧力位置で止まります。

「始動」圧力は 0MPa
0.5MPa 飛びにノッチで止まります。
最大 2.0MPa まで設定できます。

エア抜きコック

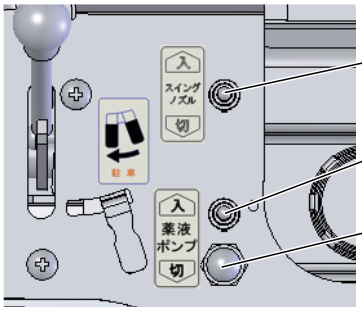
- ポンプのエア抜き及び加圧・減圧を行います。



散布コック

- 散布ノズル（左），（中），（右）の散布↔停止をします。
- 散布対象に合わせて、コックを切り替えて散布します。

2. 各部の名称と取り扱い



スイングノズル
スイッチ

薬液ポンプスイッチ

薬液ポンプランプ

スイングノズルスイッチ

- 散布ノズル（中）を作動するスイッチです。

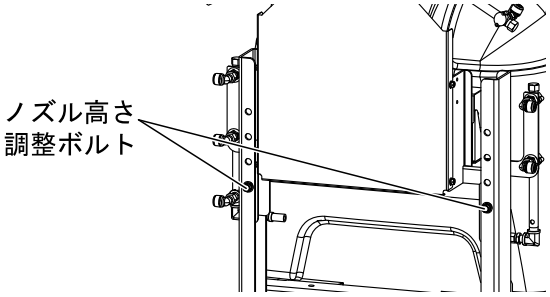
薬液ポンプスイッチ

- 薬液ポンプを作動するスイッチです。

薬液ポンプランプ

- 薬液ポンプスイッチを入れると赤ランプが点灯します。

重要
❍ **薬液タンクに清水または薬液が入っていないとポンプが空回転となり故障につながります。**



ノズル高さ
調整ボルト

ノズル高さ調整ボルト

- ノズルの高さを調整するボルトです。

  2 本のボルトを取り外し、取り付け穴を変更することにより、ノズルの高さを 50mm ずつ 4 段階で調整することが可能です。

⚠ 注意
❍ **高さ調整作業は必ず 2 人で作業してください。** 事故やケガを負う恐れがあります。

3. 作業の準備

3-1. 運転前点検

⚠ 警告

❍ **安全作業のため、の日常点検作業表を参照して、運転前に点検をしてください。**
整備不良のまま使用すると事故や重傷を負う原因となります。

3-2. 燃料の準備

⚠ 危険

❍ **エンジンを停止し、エンジンが冷えてから燃料キャップを取り外し、燃料を補給した後は燃料タンクのキャップを確実に締付てください。**
❍ **燃料を補給中にタバコを吸ったり、火気を近づけたりしないでください。**
燃料に引火して火災を起こしたり、火傷を負ったりすることになります。

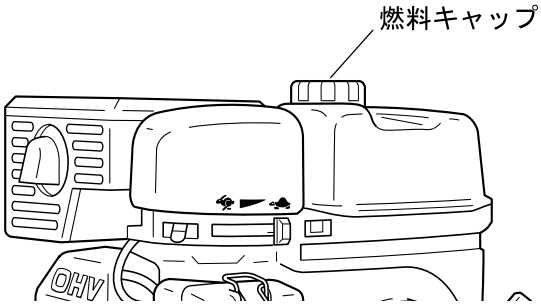


⚠ 警告

❍ **燃料タンク口元まで補給しないでください。**
❍ **燃料をこぼさないように注意して、こぼれたら拭き取ってください。**
❍ **燃料タンクや燃料ホースから燃料の漏れやにじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**
❍ **燃料は換気のよい場所で保管してください。**
燃料に引火して火災や火傷の原因となります。
❍ **余った燃料は鋼板製のガソリン携行缶で保管してください。**
❍ **燃料を運搬する際は鋼板製のガソリン携行缶を使用してください。**
ポリ容器での運搬や保管は法律で禁止されており、火災の原因となります。

重要

❍ この製品に使用する燃料は自動車用無鉛ガソリンです。燃料タンクには自動車用無鉛ガソリンのみを入れてください。
❍ 余った燃料の保管期間は 1ヶ月程度としてください。



燃料の給油

- 燃料は自動車用無鉛ガソリンです。
- 自動車用無鉛ガソリンの中に水分やゴミが入っていると、エンジン不調の原因となります。きれいな自動車用無鉛ガソリンを使用してください。

燃料キャップ

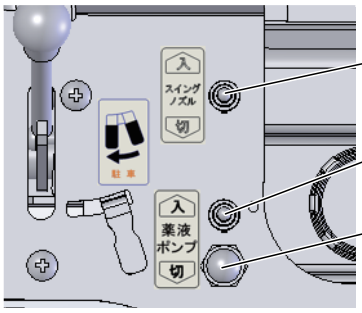
- 燃料を入れ終わったら、確実にキャップを締めてください。

3-3. エンジンの運転

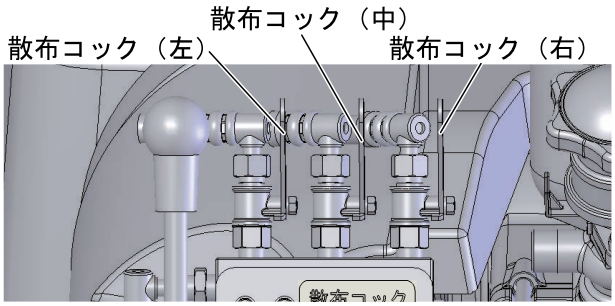
⚠ 警告

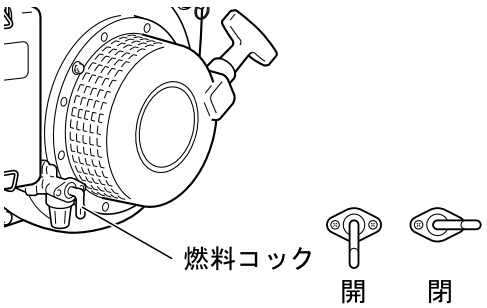
- **マフラ・エアクリーナを取り外してエンジンを運転しないでください。**
- **エンジン運転中や、停止直後のエンジン本体、マフラなどの過熱部には手を触れないでください。**
  火傷の原因となります。
- **エンジンの排出ガスには、有毒な成分が含まれています。屋内など通気の悪い場所ではできるだけ運転しないでください。**
- **車両の移動のためにやむを得ず始動するときは窓や戸を開けて換気をして、始動後は速やかに屋外に移動してください。屋内で暖機や長時間の運転をしないでください。**
  中毒事故の原因となります。





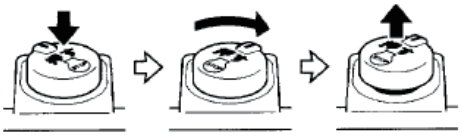
1. 始動前に以下のことを確認してください。
   - 駐車ロックレバーが「駐車」位置になっている。
   - 散布コックが閉じている。
   - 薬液ポンプスイッチ、スイングノズルスイッチが「切」になっている。



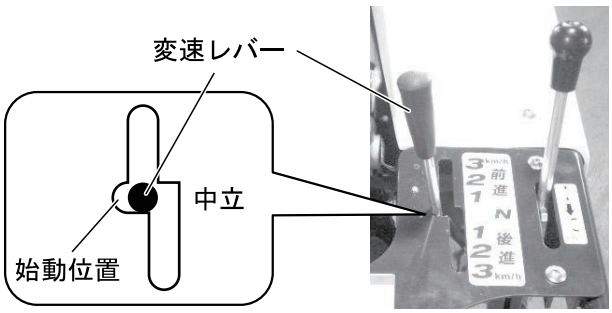


- 燃料コック
  - 燃料タンクからキャブレタに燃料を入れたり切ったりするコックです。停止させたときは、「閉」にしてください。

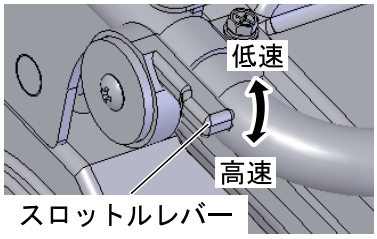
2. エンジンを始動するときは、コックを「開」にしてください。
3. エンジンスロットルレバーを低速位置から、約 1/3 高速側へ動かします。



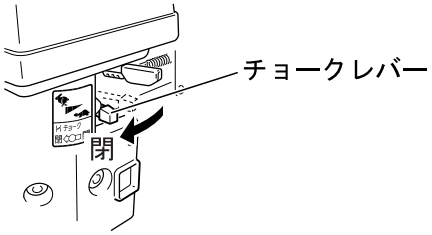
4. エンジンストップスイッチを「運転」位置にしてください。（押しながら右に回し、引き上げるように手を離します。停止するときは軽く押すことにより「停止」位置となります）



5. 変速レバーを「始動」位置にしてください。このとき、レバーが中立の切り欠きに入っていることを確認してください。



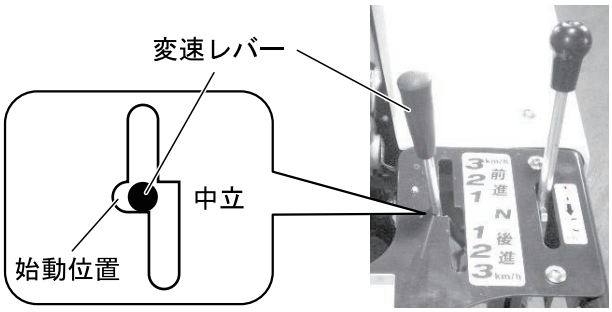
6. リコイルスタータハンドルを引いてエンジンを始動し、その後スロットルレバーを低速にしてください。



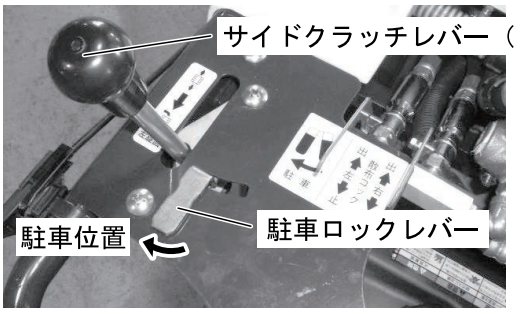
重要

❍ エンジンが冷えているときは、チョークを「閉」にしてからリコイルスタータを引いてください。エンジンが始動したら必ずチョークを「開」にしてください。

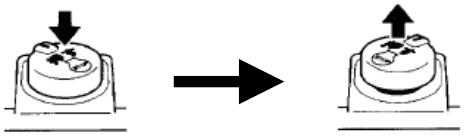
3-4. エンジンの停止



1. 変速レバーを始動位置にしてください。このとき、レバーが中立の切り欠きに入っていることを確認してください。

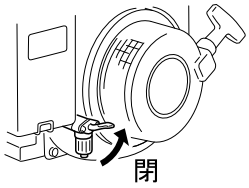


2. サイドクラッチレバー（左）を引きながら、駐車ロックレバーを左にスライドして「駐車」位置にしてください。



3. エンジンストップスイッチを押して、エンジンを停止してください。

4. 燃料コックレバーを「閉」の位置にしてください。



4. 車両の運転

⚠ 危険

❍ 車両を運転するときは、次のことを守ってください。

- **人や荷物を乗せない**
- **急発進、高速急旋回をしない**
- **坂道の途中でクラッチや変速レバーの操作をしない**
- **テラス式（等高線方式）の道路の路肩は崩れやすいので、十分に気をつけて走行する**
- **危険を感じた場合はすぐに運転を中止し、エンジンを停止する**



❍ 路肩が崩れたり、クローラが浮いたりしないように走行路を整備してください。

転倒事故や重傷・死亡事故を起こすことになります。

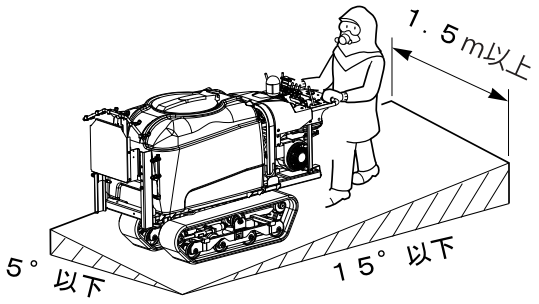
⚠ 警告

❍ 一般道路は走行できません。

❍ ほ場へ出入りするときは、あらかじめ速度を落とし、斜面の勾配方向と車両の進行方向を合わせて十分注意して走行してください。横向きや斜めに走行しないでください。

斜め進入は転倒事故の原因となります。

❍ 車両の方向を変えるときは、クローラが全て地面に接していることを確認してください。



4-1. 発進の方法

⚠ 注意

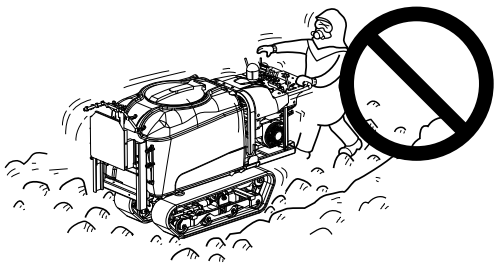
❍ 発進する前に、周囲の安全をよく確認してください。

事故の恐れがあります。

1. サイドクラッチレバー（左）を引き、駐車ロックレバーを解除してください。
2. エンジンスロットルレバーを適当なエンジン回転位置に合わせてください。
3. 変速レバーを前に倒すと前進、後ろに倒すと後進します。変速レバーの傾き量により速度が変わります。

   ※ 速度ラベルは目安です。
4. サイドクラッチレバーで走行の進路を変更し決定してください。

4-2. 走行中の注意



- 発進した後に必ず変速レバー中立位置で車両が停止するかを確認してください。
- 凸凹路の走行は車両の姿勢が大きく変化し進行方向が大きく変わりますので、走行中は必ずハンドルから手を放さないでください。
- 走行中はよそ見をしないでください。作業場所以外を見るときは、必ず車両を停止してください。

4-3. 坂道の走行

⚠ 警告

❍ 坂の途中でサイドクラッチレバーを操作しないでください。

❍ 坂道では変速レバーを中立付近へ戻し、速度を落として走行してください。

❍ 坂道では降りるときのほうが加速がつきます。降りるときは速度を遅くしてください。

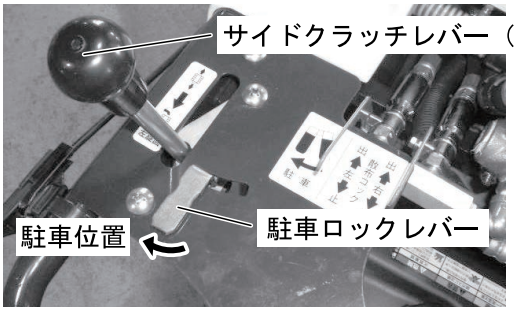
事故の原因となります。

4-4. 車両の停止

⚠ 警告

❍ 坂道で車両を止めた場合は、クローラに輪止めを掛けてください。
❍ 乾燥した草やワラなど、燃えやすい物が堆積した場所に車両を乗り入れたり、駐停車しないでください。
❍ 不安定な場所や傾斜地に駐車しないでください。

火災や事故の原因となります。



1. 駐車する時はサイドクラッチレバー（左）を引き、駐車ロックレバーを左にスライドしてサイドクラッチレバー（左）をロックしてください。

4-5. 車両の運搬

⚠ 警告

❍ 車両を運搬するときは、次のことを守ってください。

- **誘導者をつけて、車両姿勢の急変に注意させ、的確な指示を出させる**
- **急発進をしない**
- **アユミ板上で変速、進路変更、クラッチ操作をしない**

転倒・転落などの事故の原因となります。

⚠ 注意

❍ 車両を運搬するときは、次のことを守ってください。

- **最大積載量、荷台寸法を確認し、過積載、オーバーハングにならないトラックを使用する**
- **平坦地で、トラックのエンジンを停止し、駐車ブレーキを掛け、輪止めをする**
- **補助の誘導者をつける**
- **誘導者を車両の進行方向の直前、直後に立たせないで、車両や、アユミ板の状態がよく見え、運転者に的確な指示ができる位置に立たせる**

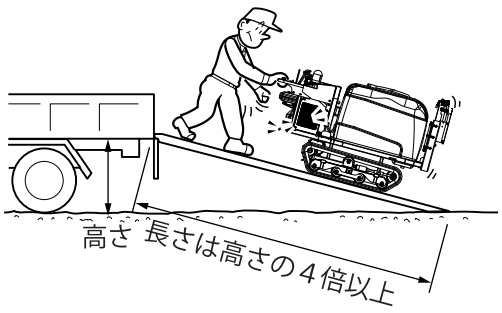
転倒・転落などの事故の恐れがあります。

4. 車両の運転

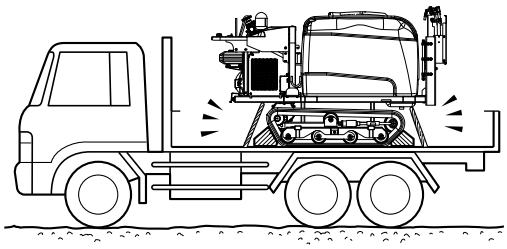


車両をトラックに積み降ろしするときは次のことを守ってください。

- 作業に関係のない人を近づけない



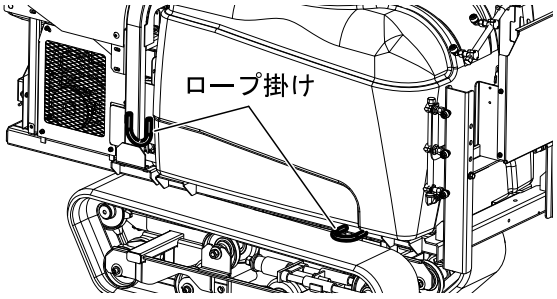
- 薬液タンクを空にする
- アユミ板は十分な強度で滑り止めが付いたものを使用する
- アユミ板の長さが地上からトラック荷台床板までの４倍以上のものを使用する
- 積み降ろしするときは変速レバーを中立付近へ戻し、十分に速度を落とす



- 積み込んだ後、変速レバーを中立にし切り欠きに入れ、エンジンを停止してサイドクラッチレバー（左）を引き、駐車ロックレバーを「駐車」位置にする
- クローラに輪止めを掛け、ロープで荷台に固定する

⚠ 危険

本機の積込みは必ず後進で、降ろすときは必ず前進で行ってください。（作業者が高い位置で行います）
本機のバランスが崩れ本機の下敷きにとなり、死亡または重症事故を起こす恐れがあります。



5. 散布作業

⚠ 警告

❍ 農薬を使用するときは、次のことを守ってください。



- **法令を遵守して農薬を使用する**
- **製品ならびに農薬の知識を持たない人は、農薬を使用しない**
- **農薬が目に入らないように注意する**
- **農薬の種類によっては、かぶれを生ずるときがあるので注意する**
- **かぶれやすい人は、使用を控える**
- **農薬が目に入ったときは、すぐに水洗し、眼科医の手当てを受ける**
- **誤って飲み込んだときは、吐き出し、すぐに医師の手当てを受ける**
- **体に異常を感じたときは、すぐに医師の診察を受け、使用していた農薬の種類を告げる**



- **防除対象作物以外への飛散がないよう環境へ配慮する**
- **農薬は残らないよう調製し、必ず使い切る**
- **作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいと洗眼をする**
- **子供の手が届かない場所に農薬を保管する**

農薬の誤った使用は、重大な薬害事故の原因となります。

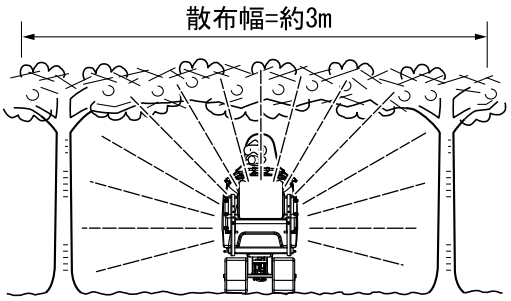
⚠ 注意

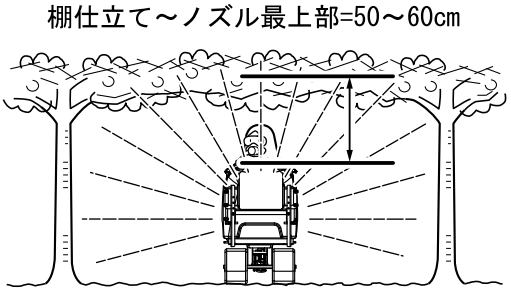
❍ 農薬を使用するときは、次のことを守ってください。

- **農薬ラベルをよく読み、記載されている事項を確認してから農薬を使用する**
- **農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用して、農薬に直接触れない**

薬害事故の恐れがあります。

5-1. 散布計画





※ 本項目では棚仕立てを対象とした散布作業について記載しています。

薬液の散布前に、あらかじめ綿密な計画と手順を決めることが必要です。

- 散布する薬剤の種類と散布量を決めます。
- 棚仕立てとノズル最上部の距離が50～60cmになるように、ノズルユニットの高さを調整します。
- 木の大きさ、葉の茂り具合や風の強さや方向によって、ノズルの種類、走行道順を選定します。

これらの条件をよくまとめてから、次の散布諸元を決定します。

散布諸元

反当散布量：L/10a（リットル / 10 アール）

- 散布対象となる病害虫の種類と使用する薬剤の濃度、種類などから散布量を決めます。

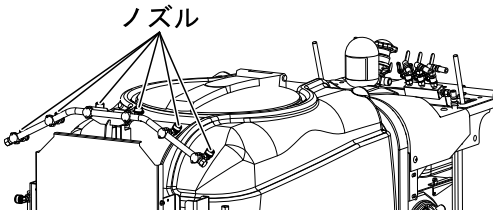
散布幅：m（メートル）

- 本機の上方での散布幅は約 3 m です。棚仕立てとノズル最上部の距離が 50 ～ 60cm になるように、ノズルユニットの高さを調整してください。

走行速度：km/h（キロメートル / 時）

- 散布に最適な走行速度は、樹形整枝の状況などから決めます。本機の適正な散布走行速度は約 1km/h ですが、果樹の葉の繁茂状態を考慮して走行速度を変化させて確認してください。速度を早くしすぎると散布のむらにつながります。

5. 散布作業



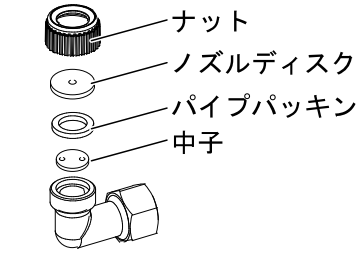
散布走行速度は次の計算式で算出します。

散布走行速度 (km/h)

$$\text{散布走行速度 (km/h)} = \frac{\text{ノズル総噴霧量 (L/min)} \times 60}{\text{散布幅 (m)} \times \text{散布量 (L/10 a)}}$$

ノズル総噴霧量：L/min（リットル / 分）

- ノズル総噴霧量とは配置した全ノズルから毎分噴霧する総量で、使用される個々のノズルの種類、および個数によって算出します。
- ノズル総噴霧量はノズル性能表を使って算出してください。
- 薬液ポンプの標準圧力は 1.5 MPa(15 kgf/cm^2) です。ノズル圧力 1.5 MPa(15kgf/cm^2) のノズル性能表を読んでください。
- ノズル総噴霧量が 26.3L/min を越えないように設定してください。



シングルノズル

ノズルの選択

- 本機のノズルはノズルディスクと中子を組み合わせて使用してください。
- 噴霧量を変える時にはノズルディスクを、噴霧角度を変える時には中子を変更してください。



中子の種類

中子は 3 種類あります

- 2 ホール

  拡散型（霧が細かく拡散角度が大きく広範囲にわたり平均可した噴霧が可能）

- セミ 3 ホール

  中間型（2 ホールと 3 ホールの中間の噴霧が可能）

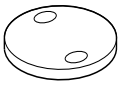
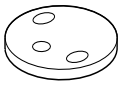
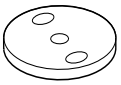
- 3 ホール

  直進型（拡散角度が小さく直進力にに富む為浸透性、到達性が大きく樹冠内部にまで到達が可能)

●ノズルには次の種類があります。各ノズルディスクと中子の組合せ噴霧量は次の通りです。

5. 散布作業

ノズル性能表（中子とノズルディスク組合せによるノズル１個当りの噴霧量）

ノズル圧力	ノズル穴径	２ホール（拡散型） 		セミ３ホール（中間型） 		３ホール（直進型） 	
MPa (kgf/cm^2)	mm φ	噴霧量 L/min	拡散角度	噴霧量 L/min	拡散角度	噴霧量 L/min	拡散角度
1.0 (10)	1.0	1.0	45	1.4	30	1.9	20
	1.2	1.3	50	1.9	35	2.8	25
	1.4	1.7	55	2.5	40	3.3	30
	1.6	1.9	60	2.9	45	4.6	35
	1.8	2.3	63	3.6	48	5.4	40
	2.0	2.7	65	4.1	50	6.5	45
	2.2	2.9	70	4.7	55	7.1	48
	2.4	3.1	75	5.1	60	7.5	50
1.5 (15) （標準）	1.0	1.3	45	1.8	30	2.3	20
	1.2	1.7	50	2.3	35	3.4	25
	1.4	2.1	55	3.0	40	4.3	30
	1.6	2.5	60	3.7	45	5.5	35
	1.8	2.8	63	4.5	48	6.5	40
	2.0	3.2	65	5.1	50	7.3	45
	2.2	3.5	70	5.8	55	8.7	48
	2.4	4.1	75	6.4	60	9.3	50
2.0 (20)	1.0	1.5	45	2.1	30	2.6	20
	1.2	1.9	50	2.7	35	3.8	25
	1.4	2.4	55	3.5	40	4.7	30
	1.6	2.8	60	4.3	45	6.3	35
	1.8	3.3	63	5.0	48	7.4	40
	2.0	3.7	65	5.9	50	8.5	45
	2.2	4.1	70	6.5	55	9.9	48
	2.4	4.6	75	7.5	60	10.9	50

●ノズル総噴霧量は次の式で計算してください。

$$\text{ノズル総噴霧量 (L/min)} = \frac{\text{散布速度 (km/h)} \times \text{散布幅 (m)} \times \text{散布量 (L/10a)} \times \text{ほ場係数 (0.6 〜 0.8)}}{60}$$

散布計画例

散布量 250 L/10 a　防除暦などからの 10 a 当たりの散布量

散布幅 3.0 m　本機の有効散布幅は 3.0m です。

散布速度 1.2 km/h　対象作物によって変わります。

ほ場係数 0.8　ほ場条件により選定します。

- 0.6：軟弱地、傾斜地の多いほ場
- 0.7：草生地、標準的なほ場
- 0.8：乾燥した平地、直線走行の長いほ場

5. 散布作業

● 10 a 当たり散布量は次の式で計算してください。

$$\text{10 a 当たり散布量 (L/10 a)} = \frac{\text{ノズル総噴霧量 (L/min)}\times 60}{\text{散布幅 (m)}\times \text{ 散布速度 (km/h)}\times \text{ 係数 (0.6 〜 0.8)}}$$

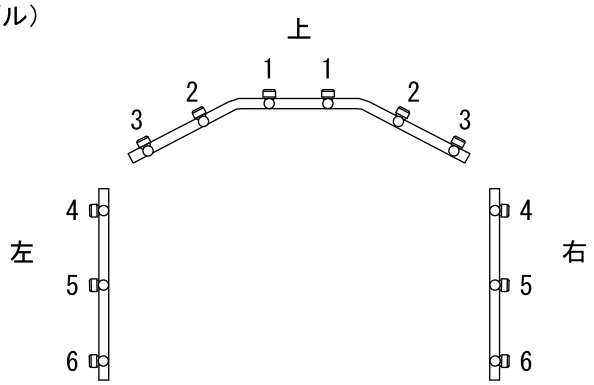
● ノズル総噴霧量の計算例

$$\text{ノズル総噴霧量 (L/min)} = \frac{1.2\ (\text{km/h})\times 3.0\ \text{m}\times 250(\text{L/10 a})\times\ 0.8}{60} = 12.0\ \text{L/min}$$

ノズル圧力 1.5 MPa (15 kgf/cm^2) で散布するときのノズル組み合わせを次に示します。

ノズル穴径	中子	個数	噴霧量（L / min）
1.2φ	2ホール	2	3.4
1.2φ	セミ3ホール	2	4.6
1.0φ	3ホール	2	4.6
合計		6	12.6

ノズル配列（標準状態・すべてシングルノズル）



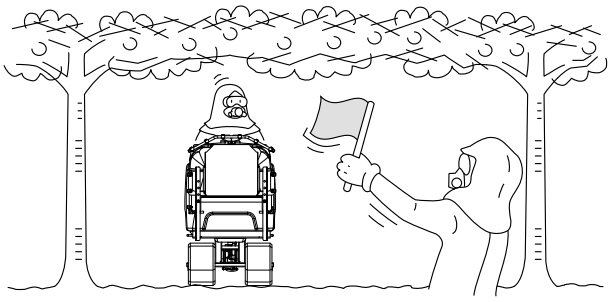
ノズル配列表

ノズル№		1	2	3	上部噴霧量 (L/min)	4	5	6	両側噴霧量 (L/min)
噴頭	中子	2	S3	3	-	S3	2	S3	-
	ノズル穴径 (mm)	1.2	1.2	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-
噴霧量	1.0MPa (10kgf/cm^2)	1.3	1.9	1.9	10.2	1.4	1.0	1.4	17.8
	1.5MPa (1.5kgf/cm^2)	1.7	2.3	2.3	12.6	1.8	1.3	1.8	22.4
	2.0MPa (2.0kgf/cm^2)	1.9	2.7	2.6	14.4	2.1	1.5	2.1	25.8

5-2. 薬液散布の方法

⚠ 警告
❍ 農道および散布道の幅は最低 1.5 m 必要です。 転倒・転落などの事故の原因となります。

重要
❍ できるだけ無風時（早朝や夕方など）を選んで散布すると到達距離が増します。



自然風に対して

- 薬液の到達性は自然風の影響で大きく変化するので、その日の気象状態をよく考えて散布速度や走行道順などを定めてください。

補助者

- 散布作業を二人以上でするときは、主任作業者とそれぞれの作業の専任者を決めてください。共同で作業をするときは、あらかじめ合図を決めてください。
- 視界が悪い場所では、誘導する人を決めてください。手旗などで運転者に周りの状況を伝えてください。

5-3. 薬液散布の準備

⚠ 警告
❍ **薬液調製の際は、飲料水源や自然河川・湖沼から直接給水しないで、専用の給水栓や薬液補給用水槽から給水してください。** ❍ **薬液は残らないように調製して、必ず使い切ってください。余分に作って、残液を外部に廃棄しないでください。** 環境破壊の原因となります。



重要
❍ 薬剤は濃度が均等になるように溶かしてください。 ノズルの目詰まりの原因となります。

5-4. 薬液散布の操作

⚠ 警告

❍ **作業をする場所をよく調べ、作業関係者以外の人（特に子供）・動物・養蚕・養蜂・他の作物などが近くにないことを確認してください。**

無防備な第三者の薬害事故や、環境被害の原因となります。

❍ **薬液の分散を防ぐため、風のない温度が安定している朝、または夕方に散布してください。**

気温が上がると、薬液が空気中に上昇したり気化したりします。また、風に乗って予期しない方向へ薬液が飛び、薬害事故の原因となります。

❍ **風が強いときには散布作業をしないでください。**

風向きが急に変わり、予期しない方向へ薬液が飛ぶことがあります。

❍ **作業者に薬液が飛ぶ事を避ける為に、後進しながら散布してください。**

❍ **風上に向かって進みながら風下に散布してください。**
❍ **風が横から吹く場合は、風上に車両を寄せるようにして走行してください。**

作業者側に薬液が飛ぶ原因となります。

❍ **散布作業中は、喫煙や飲食をしないでください。**

タバコや飲食物に付着した農薬が、それらを介して体内に入る恐れがあります。

❍ **あらかじめ除草などの管理作業をしてください。**
❍ **農薬散布直後のほ場に無防備で入らないでください。**
❍ **薬液が乾くまでは「立入禁止」の表示を置いて、第三者の立入を禁じてください。**

薬害事故の原因となります。

重要

❍ 散布作業は、圧力 2.0MPa 以下で使用してください。
❍ 手散布作業時、エンジン回転低速では使用しないでください。
❍ 手散布時、20m ホース等を仕様する場合は、管路抵抗があるので、ポンプ圧力はノズル圧力より 0.1 ～ 0.2MPa（1 ～ 2kgf/cm^2）程度高くなります。
❍ 5 分間以上空運転をしないでください。この製品の薬液ポンプは薬液を圧力シールの潤滑に使用しています。空運転を続けると圧力シールが破損し、故障の原因になります。
❍ 本機は、薬液のかくはんを薬液ポンプの余水（循環水）と噴流かくはんにて行なっています。薬液投入後は、散布終了まで薬液ポンプを運転し薬液のかくはんを行なってください。

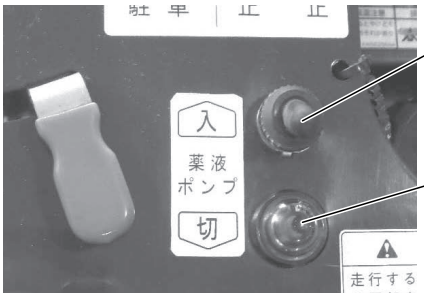
■ 農薬使用上の留意点

農薬取締法が改正されました。

・平成 15 年 3 月の農薬取締法改正にともなう省令に基づく使用基準により

（1）使用する作物に登録のある農薬を使用すること
（2）使用濃度（希釈倍率）および面積あたりの使用量
（3）収穫前使用日数
（4）使用回数

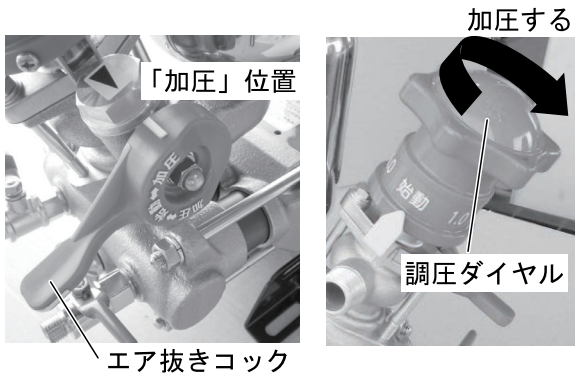
の 4 点については農薬使用者が遵守する義務が生じています。



1. 散布コックが閉じていることを確認し、薬液ポンプスイッチを「入」にして、薬液ポンプランプを点灯させてください。

※ エンジン停止時は点灯しません。

5. 散布作業



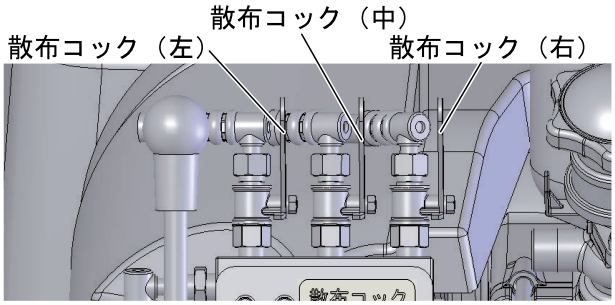
2. エア抜きコックを「加圧」位置に合わせてください。
3. 必要な圧力まで調圧ダイヤルを回してください。
   [最高圧力：2.0 MPa（20 kgf/cm^2）]

重要

- エア抜きコックは、「加圧」または「始動」位置へ確実に合わせてください。圧力が上がらなかったり、エア抜きコックの故障の原因となります。
- ホースの最高使用圧力を超えて使用すると、ホースの破裂や金具抜けを生じる原因となります。最高使用圧力またはそれ以下で使用してください。

⚠ 警告

- **調圧ダイヤル上部にあるキャップを外して、圧力調整ネジによる調整は行わないでください。**
  規定圧力以上となり機械が破損し、事故や重症を負う原因となります。
- **調整が必要な場合はお買い求めの販売店に調整を依頼してください。**



4. 薬液タンクのフタを開けて、薬液のかくはん状況を確認してください。
5. スイングノズルスイッチを「入」にしてください。
6. 散布コックを開いて、散布してください。

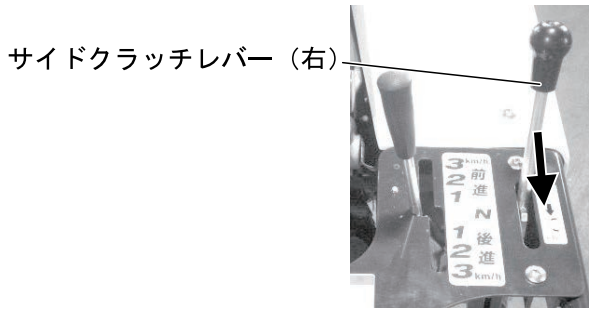
■旋回を行なう

⚠ 警告

- **旋回する方向に人、障害物のないことを確認し、ゆっくりと行なってください。**

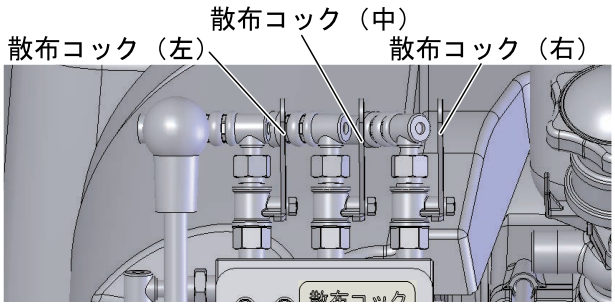
重要

- 各サイドクラッチレバーは確実に操作してください。中間位置での使用は故障の原因となります。

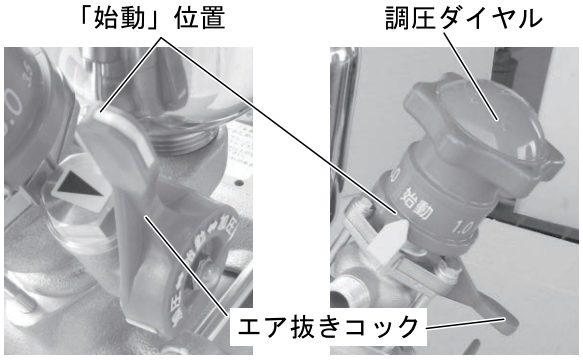


1. 安全な速度までレバーを戻してください。
2. 左に旋回するときは、左のサイドクラッチレバーを引いてください。右に旋回するときは、右のサイドクラッチレバーを引いてください。
3. 旋回後はサイドクラッチレバーをはなしてください。

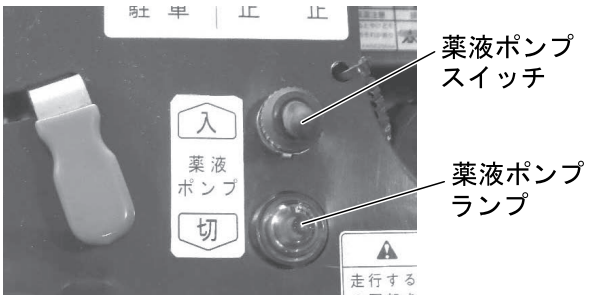
5-5. 散布終了



1. 散布コックを閉じてください。
2. スイングノズルスイッチを「切」にしてください。



3. 調圧ダイヤルを「始動」位置に戻してください。
4. エア抜きコックを「始動」位置に合わせてください。



5. 薬液ポンプスイッチを「切」の位置にして、薬液ポンプランプを消灯させてください。

6. 作業終了後

6-1. 清掃

⚠ 警告

❍ **平坦な場所で、エンジンを停止しサイドクラッチレバー（左）を引き駐車ロックレバーを「駐車」位置にして、製品が冷えてから清掃してください。**

火傷や事故の原因となります。

❍ **凍結防止に凍結防止剤を使用した後に製品を使用するときは、凍結防止剤の説明書に従って凍結防止剤を回収してください。環境汚染を起こすので、外部に廃棄しないでください。**

⚠ 注意

❍ **清掃する前に、ノズルから薬液が出ていないことを確認してください。**

重要

❍ 水抜きなどで薬液ポンプの空運転をするときは、5 分間以下としてください。空運転による薬液ポンプの破損は、保証の対象外となります。
❍ 寒冷時の使用後は、凍結による破損事故を防ぐため、特に各部の水抜きは完全に実施してください。凍結による不具合は、保証の対象外となります。

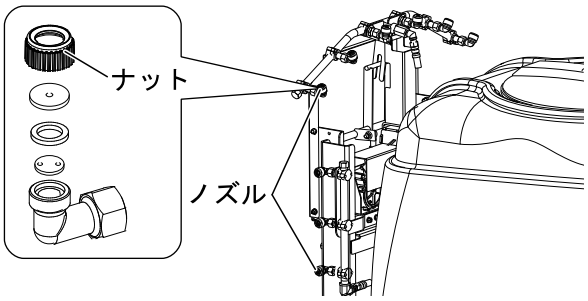
１日の散布作業が終わったら、次の要領で使用後の清掃をしてください。

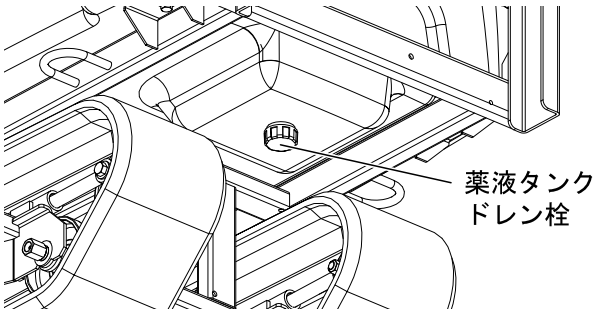
洗浄運転

- 薬剤で汚れた部分は清水できれいに洗浄し、製品は常に清潔な状態にしてください。
- 薬液タンクに清水を補給し散布の要領でノズルから吐出し、薬液配管内の洗浄をしてください。
- 洗浄液は外部に廃棄しないでください。
- こし網（薬液タンクこし器、吸水ストレーナ）は、薬剤の粗粒が詰まっていることが多いのでよく清掃してください。

各部の水抜き

- 薬液管（中）は両端のノズルのナットを、薬液管（左）、（右）は最下側のノズルのナットを外して水抜きをしてください。





凍結の恐れがある場合

- 薬液タンクドレン栓を外し、薬液タンクを空にしてください。
- エンジンを運転し、薬液ポンプスイッチを「入」にして、ノズルから水が出なくなるまで空運転をしてください。
- 補助コックを開け、薬液ポンプ内部の水を抜いてください。
- 凍結による破損事故を防ぐには、ウインドウォッシャ液を配管内各部に入れる方法もあります。水とウインドウォッシャ液の混合液を作って薬液タンクに入れ、薬液ポンプを運転しノズルから噴霧してください。（混合液の濃度は、ウインドウォッシャ液の説明書に従います。）

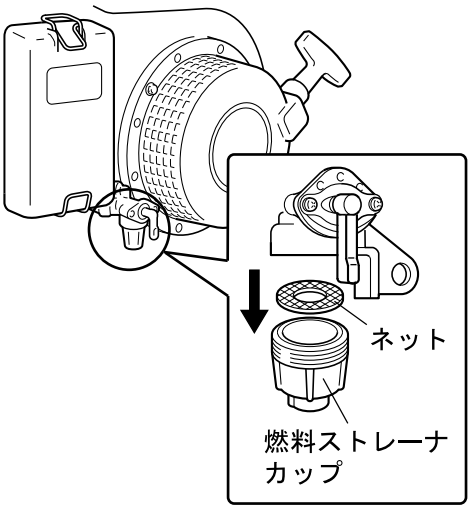
6. 作業終了後

6-2. 保管

⚠ 警告

❍ **乾燥した草やワラなど、燃えやすい物が堆積した場所に駐停車しないでください。また、このような場所に車両を乗り入れないでください。**

堆積物に引火して火災の原因となります。



- 保管する前に薬液タンク、配管、ポンプの水を抜いてください。水が残ると寒冷時に凍結し薬液タンクなどの配管部品を破損することがあります。
- 燃料タンクの燃料は、燃料ストレーナカップを取り外し燃料を排出して空にしてください。燃料排出後は、燃料ストレーナカップを確実に取り付けてください。
- サイドクラッチレバー（左）を引き駐車ロックレバーを「駐車」位置にしてください。
- 以下のような場所に保管してください。

  熱、直射日光にさらされない
  湿気が少ない
  平坦である
  安定している
  子供がさわることができない
  火気がない

⚠ 警告

❍ **凍結防止に凍結防止剤を使用した場合の回収方法は凍結防止剤の説明書または、各自治体の条件に従ってください。**
❍ **薬害や環境汚染に十分配慮し、薬剤は必ず使い切ること。直接外部に放棄しないでください。**

重要

❍ **寒冷時の使用後は、凍結による破損事故を防ぐため、特に各部の水抜きは完全に実施してください。**

凍結による不具合は、保障の対象外となります。

- 寒冷時の凍結防止剤はやまびこ指定の凍結防止剤を推奨致します。

部品名称	部品番号
アンチフリーズ（20L）	E41207

7. 点検･整備

⚠ 警告

- **平坦な場所で、エンジンを停止しサイドクラッチレバー（左）を引き駐車ロックレバーを「駐車」位置にして、製品が冷えてから、点検整備をしてください。**
- **エンジンを停止してからカバーを開けてください。作業が終わったら開けたカバーを閉めて確実に固定してください。**

事故や重傷を負う原因となります。

重要

- 毎月、毎年の点検・整備をした日を記録してください。
- １年に１回以上は、お買い求めの販売店に定期点検を依頼してください。
- 補用品や消耗品は必ず純正部品または指定品を使用してください。
- オイル交換後の廃液は家庭用ゴミと異なり産業廃棄物に該当します。みだりに廃棄すると、法律により罰せられます。専門の廃棄物処理業者で処理してください。

7-1. 日常点検・定期点検

ご使用者の皆さまが、この製品の性能を十分に発揮し、安全な作業をしていただけるように、日常の点検を次のようにまとめましたのでご活用ください。なお点検作業の際はクローラに輪止めを掛けて、一部の作業を除き必ずエンジンを停止してください。

⚠ 警告

- **ブレーキ、クラッチ、クローラなどに異常がある場合、直ちに運転を中止して販売店に整備を依頼してください。**

事故や重傷を負う原因となります。

表１　日常点検表（作業者が点検を行なってください。）

項目	点検内容	点検時間			
		始業	初回２０時間	100 時間毎	１年または 300 時間
Ｖベルト	ベルトの張りは適正か		○	○	
	亀裂、損傷はないか		○	○	
ミッション	オイル量は適切か		○	○	
	オイルの汚れはないか			○	
	オイル漏れはないか	◎			
	オイルの交換				○
HST	油量は適切か	◎			
燃料	燃料タンクに燃料は入っているか	◎			
	燃料キャップは確実に締まっているか	◎			
可燃物の付着	製品およびエンジンに草、屑等の可燃物が付着していないか	◎		◎ ※1	
エンジンスイッチ	エンジンが始動・停止するか	●			
非常停止スイッチ	エンジンが停止するか	●			
ラベル	ラベルのはがれ、脱落、損傷はないか	◎			
フレーム	亀裂、変形、腐食はないか				●

7. 点検･整備

表１　日常点検表（作業者が点検を行なってください。）

足回り	ゴムクローラの亀裂、損傷はないか	◎			
	遊動輪の亀裂、損傷および摩耗はないか				○
	クローラ張りの調整		○		
エンジン	オイル量は適切か	◎			
	オイル漏れはないか	◎			
カバー	各カバーに亀裂、変形、損傷はないか				○
	各カバー類に脱落はないか	◎			
スロットルレバー	レバーの動きに合わせて、エンジン回転数が変化するか	●			
サイドクラッチレバー	車両が旋回するか	●			
	レバーの遊び代は適切か		○		
	サイドクラッチワイヤの調整		○		○
	支点部の注油			○	
変速レバー	正常に前後進できるか	●			
駐車ブレーキ	左サイドクラッチワイヤの調整		○		○
	支点部の注油			○	
薬液ポンプ	オイルの量は適切か	◎		◎ ※1	
	オイルの漏れはないか	◎			

◎：エンジン始動前に、点検してください。
●：エンジンを始動させ、点検してください。

※ 1‥‥ 初回 50 時間、以降 100 時間毎

7-2. オイルの補給

重要
❍ 指定以外のオイルを使用すると故障の原因になるので、記載の指定オイルを使用してください。 ❍ オイルを交換するときは、廃油を容器で受け、こぼれた場合は拭き取ってください。 ❍ 交換後のオイルなどを、ゴミの中や地面、排水溝などには捨てないで、購入した販売店に相談して処理してください。 ❍ エンジンは付属の取扱説明書を参考にして、点検・整備をしてください。

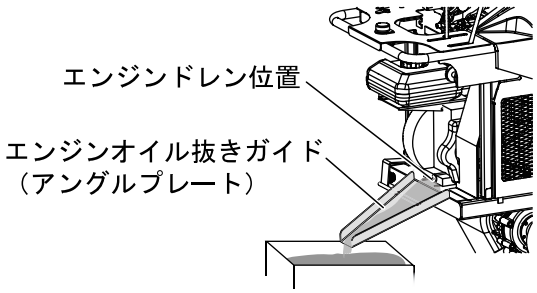
オイルについて

- オイルには、潤滑作用のほかに冷却・洗浄作用もあります。
- オイルの給油は機械の性能、耐久性と重大な関係があるので、規定の使用時間によって指定のオイルを規定量給油してください。
- エンジンオイルを交換するときは、運転後オイルが温かいうちに抜き取ると容易に作業ができます。
- 車両を水平にして交換してください。
- 各オイルの規定量は参考値です。交換するときは、各ゲージやレベルプラグを基準にしてください。
- 各オイルは 100 時間、または 1 年のどちらか早い方にて、オイルの汚れを確認してください。（日常点検箇所は除く）

項目	オイルの種類	規定量
エンジン	エンジンオイル SE 級以上 SAE # 30	0.55L
薬液ポンプ	エンジンオイル CD 級または、SE 級以上 # 30 相当	0.65L

7. 点検･整備

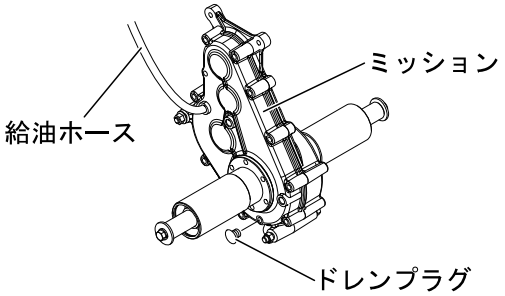
項目	オイルの種類	規定量
HST	エンジンオイル CD 級以上　10W-30	0.55L
走行ミッション	ギヤオイル　# 90	1.0L
レバー部	潤滑スプレー等	適量



エンジンオイルの交換

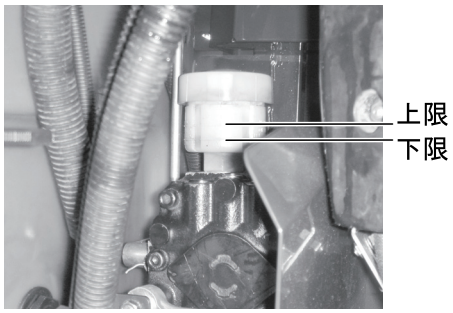
1. 付属のエンジンオイル抜きガイド（アングルプレート）を使用してエンジンオイルを抜いてください。
2. オイル交換はエンジンの取扱説明書を参照してください。

- エンジンオイル抜きガイド（アングルプレート）はテープ等で固定してください。
- 機体前方（薬液タンク側）を持ち上げると効率よく作業が行なえます。



ミッションのオイルの交換

1. ドレンプラグを外し、オイルを抜いてください。
2. オイルが完全に抜けたら、ドレンプラグを確実に締め、新しいオイルをホースがついている穴の隣の穴からオイルがあふれ出す程度まで給油してください。

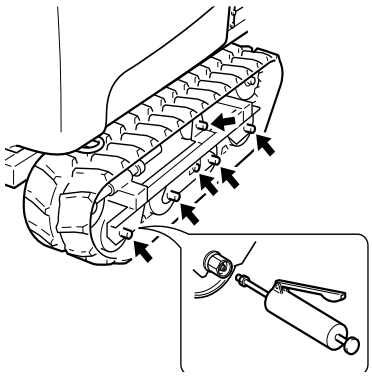


HST のオイル点検・補給

ＨＳＴ オイルタンクのオイル量を外観から点検し、オイル量が上限と下限の範囲に無い場合には、オイルタンクのキャップを開け、オイルを補給してください。

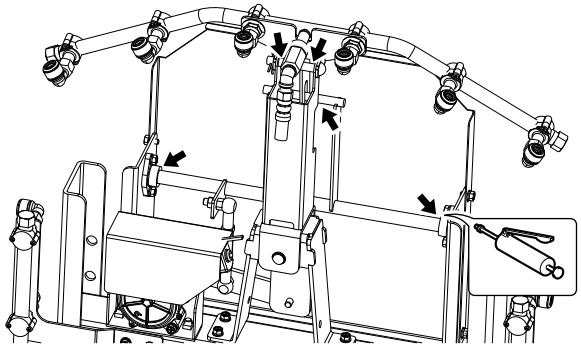
- オイル量点検時は、オイルが完全に冷えた状態で確認してください。
- 異種のオイルを混合しないでください。ＨＳＴ 故障の原因となります。

7-3. グリスアップ



・走行用クローラ部のグリスニップル

補充・・・・・25 時間毎
種類・・・・・リチウムグリス

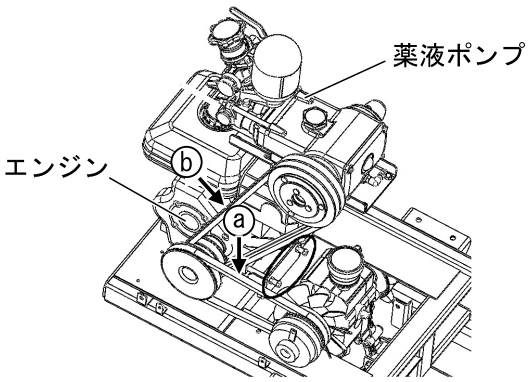


・スイングノズルのリンク

補充・・・・・5 ～ 10 時間使用毎
種類・・・・・リチウムグリス

7-4. 各部の点検

■散布系統の点検



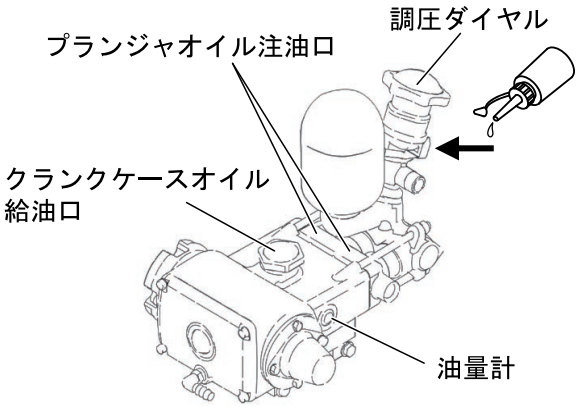
V ベルトの張り調整は矢印（　→　）部にて確認してください。エンジンと薬液ポンプ両方の張りを確認してください。

ベルト張りの目安（ベルトのたわみ量）

a 部	3kg で 10mm
b 部	3kg で 10mm

■薬液ポンプの点検

部品名	整備内容	整備時期
プランジャ	給油	5 ～ 10 時間使用毎
クランクケースオイル	交換	初回は 50 時間使用後、以降 100 時間毎
調圧ダイヤルの周り	給油	使用時期前
エア抜きコックの周り	給油	使用時期前
ピストンパッキン	点検・交換	使用時期前
継手パッキン	点検・交換	毎年



プランジャ

- プランジャ部へオイルを給油してください。
- 付属のオイラで、プランジャ給油口から 10 滴ほど給油してください。

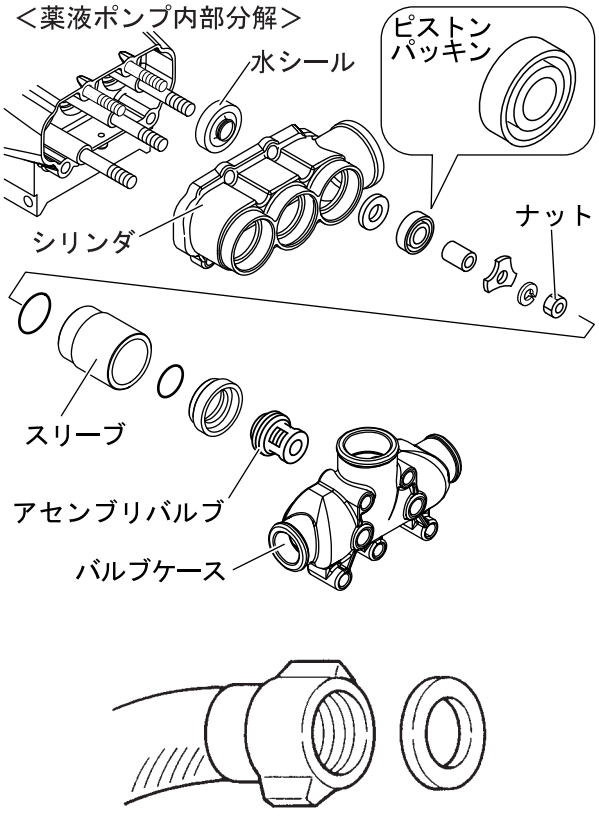
クランクケースオイル

- 油量計の油面がクランクケース中央にあることを確認してください。
- 不足しているときは、クランクケースオイル給油口から規定レベルになるまでオイルを給油してください。

  ※ 指定オイル：エンジンオイルの CD 級 または、SE 級以上 #30 相当

調圧ダイヤル

- 付属のオイラで適量を給油してください



ピストンパッキン・水シール

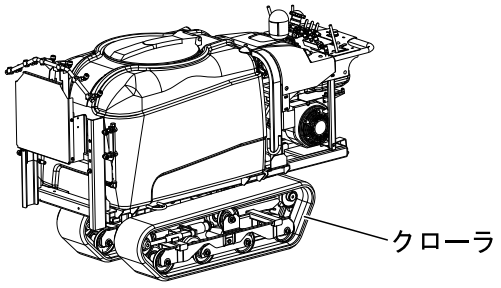
重要
ピストンパッキンや水シールを交換するときは、向きを間違えないようにしてください。

- 長時間使用し、吸水しなくなったり、圧力が上がらなくなったときは、ピストンパッキン・水シールが摩耗している可能性があります。シリンダを外し、ピストンパッキン・水シールを交換してください。

継手パッキン

点検し、損傷や摩耗しているときは、交換してください。

■クローラ



クローラ

- 亀裂、損傷および偏摩耗の有無、異常な緩みなどがないか確認してください。
- 調整や交換が必要な場合は、販売店に依頼してください。

7-5. 故障対策

⚠ 警告

○ブレーキ、クラッチ、クローラなどに異常がある場合、直ちに運転を中止して販売店に整備を依頼してください。

事故や重傷を負う原因となります。

- 点検・整備には専門的な知識が必要です。ご自分で点検・整備や故障対策ができない場合や、表中に記載されていない故障のときは、むやみに製品を分解しないで、お買い求めの販売店にご相談ください。
- 販売店にご相談するときは製品の状況と合わせて「型式名」･「製造番号」をお知らせください。
- 補用品や消耗品は、必ず純正部品または指定品を使用してください。他社部品あるいは指定品以外の部品を使用すると、故障の原因となる場合があります。
- 製品や部品を廃棄するときは、販売店にご相談するか、自治体の指導に従ってください。

■エンジン部

不調の状況		原因（点検箇所）	処置
エンジンが始動しないまたは困難	リコイルが引けない	・エンジンが焼き付いている	・販売店へ（修理・交換）
		・異物がかみ込んでいる	・販売店へ（清掃・交換）
	スタータが回転するが始動しない（リコイルは引けるが始動しない）	・燃料タンクに燃料がない	・燃料を補給する
		・燃料コックが閉じている	・「開」にする
		・気温が低い	・チョークを「閉」とする
		・エンジンスイッチが運転になっていない	・運転にする
		・変速レバーが始動位置になってない	・始動位置にする
	エンジンは始動するが回転が続かない	・低速回転の調整不良	・調整する
		・燃料に水またはゴミが混入している	・清掃、燃料を抜き替える
		・チョークレバーが「閉」になっている	・「開」にする
エンジンの出力不足（自然に停止する）		・スロットルが全開になっていない	・全開にする
		・吸入空気量の不足 チョークレバーが完全に「開」になっていない	・「開」にする
		・吸入空気量の不足 エアクリーナーの汚れ	・清掃・交換する

■走行・運転操作部

不調の状況	原因（点検箇所）	処置
走行しない	・HST の故障	・販売店へ
	・ヒューズの切断	・販売店へ（点検、部品交換）
走行・停止しない	・変速レバーが中立になっていない	・「中立」にする
	・変速レバーが中立になっている	・販売店へ
走行するが車速が遅い	・ベルトが滑る	・販売店へ（調整または部品交換）

不調の状況	原因（点検箇所）	処置
走行するが旋回しない	・サイドクラッチレバーの操作が不完全	・正しい手順で操作する
	・サイドクラッチレバーの操作が完全	・販売店へ
	・クローラが滑っている	・滑らない場所へ移動

■散布装置

不調の状況	原因（点検箇所）	処置
圧力が低い	・圧力調整不良	・調圧ダイヤルで圧力を調整する
	・調圧弁シート摩耗	・販売店へ（分解、部品交換）
ポンプが回転しない	・ヒューズの切断	・販売店へ（点検、部品交換）
ポンプ回転不足	・ベルトの緩み	・販売店へ（点検または調整）
ポンプ故障	・薬液ポンプの吸排水弁の固着かゴミ詰まり	・販売店へ（分解、清掃、部品交換）
	・薬液ポンプの吸排水弁の摩耗	・販売店へ（分解、部品交換）
	・ピストンパッキンの摩耗	・販売店へ（分解、部品交換）
配管部の水もれ	・ホース継ぎ手の緩み	・増し締めをする
	・パッキンの消耗、損傷	・販売店へ（部品交換）
	・ホース損傷	・販売店へ（修理または部品交換）
配管部の詰まり	・こし網の目詰まり	・分解、清掃をする
	・ノズルが詰まっている	・分解、清掃をする
スイッチを入れてもノズルがスイングしない	・ヒューズの切断	・販売店へ（点検、部品交換）
	・スイッチまたはモータの故障	・販売店へ（修理または部品交換）

7-6. 長期格納整備

本年の散布作業が終了して、来年使用されるまでの遊休期間中に製品の分解、清掃、修理整備をして、来年の散布作業が支障なくできるようにしましょう。格納整備は購入した販売店に相談してください。格納整備は使用状況により相違がありますが、通常次の項目に大別されます。

エンジン

・製品から工ンジンを降ろしてオーバーホールし、不良箇所は修理し、細部にわたって清掃・点検・調整をします。

薬液ポンプ

・製品からポンプを降ろしてオーバーホールし、不良箇所は修理し、細部にわたって清掃・点検・調整をします。

薬液配管

・薬液配管の外傷、へたり、漏れなどがないか調べます。

V ベルト

・ V ベルトの外傷、へたり、摩耗がないか調べます。

走行部

・駆動部分、ブレーキ、クラッチなどの摩耗、ゆるみなどを調べます。車体に腐触が多い場合、再塗装します。

整備が終わった後に、長期格納保管する前に、次の項目を実施してください。

- 燃料タンク内の燃料を完全に排出する。排出後は燃料タンクドレンプラグを確実に締め付ける。
- 冷却系統の水を完全に排出する。
- 薬液タンクのふた、薬液タンクドレンキャップは開いておく。
- 金属表面の出ている所は油布で軽く表面を拭く。
- 風通しの良い、湿気の少ない場所でエンジンが冷えたのを確認後、防塵カバーを掛けて保管する。

■廃棄するとき

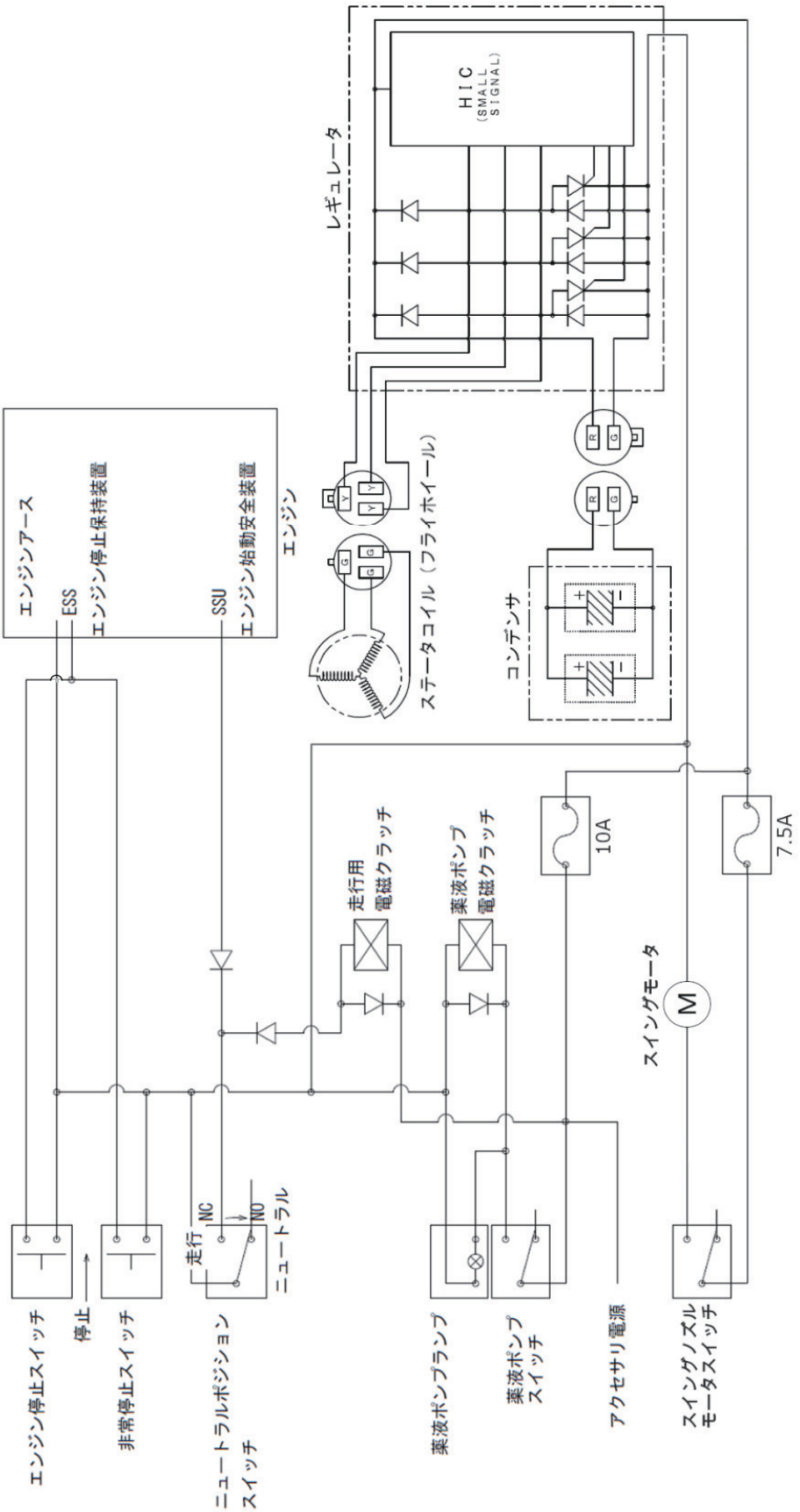
❍ 製品や部品を廃棄するときは、お買い求めの販売店に相談するか、自治体の指導に従ってください。

8. 仕様

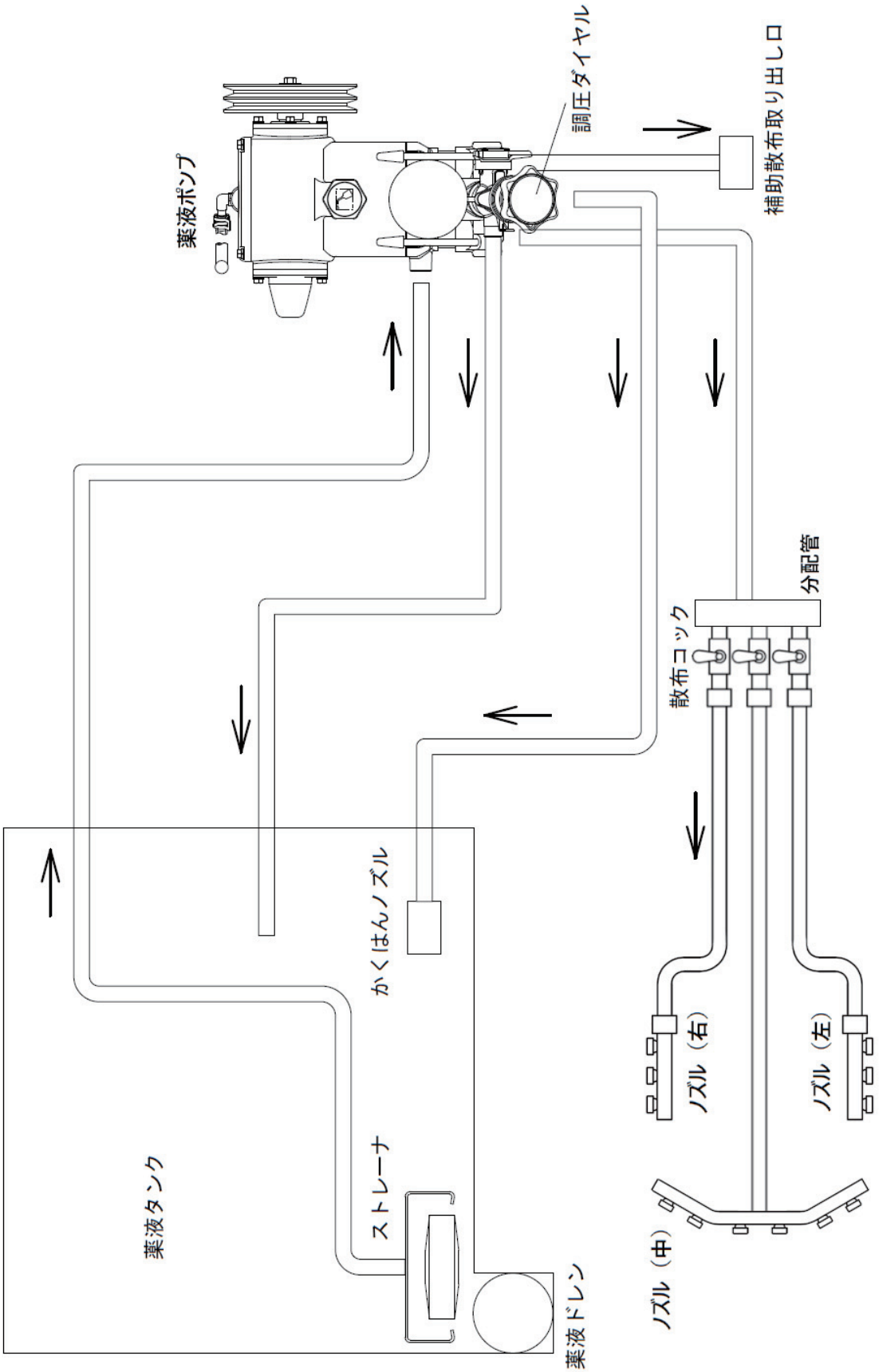
区分	項目	単位	**型式名**
			CHS363HS
機体寸法	全長	mm	1,900
	全幅	mm	680
	全高	mm	1,140~1,290（ノズル昇降最下段 ~ 最上段）
機体質量	空車	kg	270
薬液タンク	容量	L	350
	撹拌方式	-	噴流式
エンジン	型式	-	Willbe / GB181LN
	最大出力	kW/(PS)	4.6/(6.3)
	定格出力	kW/(PS)	3.4/(4.7)
	使用燃料	-	自動車用無鉛ガソリン
	燃料タンク容量	L	3.6
走行部	駆動方式	-	HST 変速（前進・後進）
	走行速度	km/h	0 ～ 3
	操向方式	-	サイドクラッチ式
	クローラ外幅	mm	640
薬液ポンプ	型式	-	SP457S2
	形式	-	3 連ピストン式
	常用回転速度	r/min	986
	最高圧力	MPa(kgf/cm^2)	2.0(20)
ノズル	種類	-	ディスクノズル
	個数	個	12（中央 6、左右各 3）
	最大噴霧量	L/min	26.3
	散布圧力	MPa(kgf/cm^2)	標準 1.5(15)

＊ この仕様は予告なしに変更することがあります。

9. 配線図


エンジンアース
ESS
エンジン停止保持装置
SSU
エンジン始動安全装置
エンジン
レギュレータ
HIC
(SMALL SIGNAL)
ステータコイル（フライホイール）
コンデンサ
走行用
電磁クラッチ
薬液ポンプ
電磁クラッチ
10A
7.5A
スイングモータ
M
エンジン停止スイッチ
停止
非常停止スイッチ
走行
NC
NO
ニュートラル
ニュートラルポジション
スイッチ
薬液ポンプランプ
薬液ポンプ
スイッチ
アクセサリ電源
スイングノズル
モータスイッチ

10. 配管図


薬液ポンプ
調圧ダイヤル
補助散布取り出し口
分配管
散布コック
かくはんノズル
ノズル（右）
ノズル（左）
ノズル（中）
薬液タンク
ストレーナ
薬液ドレン

メ　モ

メ　モ

株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0120-176-181(製品・技術的な問い合わせ)
受付時間:弊社営業日　9:00～12:00 / 13:00～17:00

やまびこジャパン株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0428-32-6181 (代)

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-031871
X750607-1501　　-2610jb ES

(C) 2025 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。